

(五) 奈良本「水神社の社叢」
すいじんじや しやそう

奈良本を守る神様をまつる水神社は、熱川駅より約一キロメートルの山あいにあります。

奈良本の街並みが始まるあたりの、天城山あまぎさんから流れ下る濁川にこりがわの西側の川べりです。水神社の森である社叢は、静岡県「ふるさと自然百選」の「お宮の森」にも選ばれているみごとな森です。また、山神が勧請かんじようされた永享二年えいきよう（一四三〇年）の木札が残っています。

面積は一ヘクタール程度とあまり広くはありませんが、高さが二十メートルを超える大木が多く、こんもりと茂っています。その中でも、社殿そばのスタジイの大きな木は目通りが六メートルを超え、訪れる人々を驚かせています。

また、この社叢の特徴は、高さが中くらいの木や低い木が少なく、高い木が多くを占めていることです。ヒノキやケヤキを除くと、スタジイやクロガネモチ、タブノキなどの照しょう

葉樹ようじゆがその主な木です。

このように、神社の森である社叢は、今ではあまり見られなくなった森の姿を残しています。水神社の社叢は、古い時代の様子を見ることができるといわれる森であるといわれています。

